

漁協を支える人材に！

4月1日、辞令を交付

JF大分

水産おおいた

2025年
05月

177号

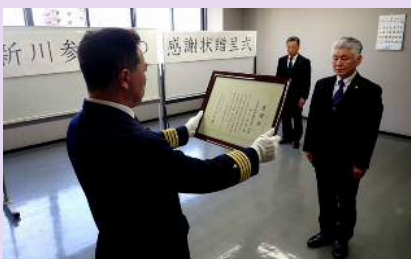
発行元
大分県漁協<http://www.if-oita.or.jp/>2 面
就任の挨拶3～4 面
水研だより5 面
海区漁調委
共済報告会6 面
黄綬褒章受章
県産魚の日

令和7年度を迎えた1日、新採用職員を含む13名に辞令を交付した。中根組合長は「本日から気を引き締めて業務にあたり、新しい職場に慣れて戦力となつてほしい」と訓示した。幹部職員の皆さんには、県漁協の改革に全力で取り組んで欲しい。



(後列左から) 総務部総務課正職員登用 大野麻衣子、鶴見支店信用課正職員新採用 脇田涼花、米水津支店指導課正職員登用 山田由斗、姫島支店購買担当正職員登用 伊東傑史、姫島支店販売担当正職員登用 大海昌和、信用事業部審査課長 橋本主輔、経済事業部購買課長 染矢拓宏、総務部漁政課長 長野定勝、経済事業部専門幹 高橋正興

(前列左から) 信用事業部長 西田淳一、経済事業部長 佐藤伸弘、本庄専務理事、中根組合長、新川参事、総務部長 永井真二郎、加工センター本部長 山本幹太 (兼務の記載は省略)



新川参事に感謝状

令和6年度の末日、新川哲浩県漁協参事は立道英樹大分海上保安部長から感謝状の贈呈を受けた。多年にわたり県内の海上保安業務に精力的に関わり、海の安全・安心に多大な貢献をした功績が認められたもの。立道部長の感謝状贈呈に続き、第七管区海上保安本部交通部航行安全課に勤務するご長男の新川真史さんからサプライズの花束が渡された。豊かな海づくり大会を始め多くの行事があった6年度を締めくくると素晴らしい時となった。



本年4月1日付けで大分県農林水産部審議監(水産担当)兼漁業管理課長に就任した大塚です。よろしくお願いします。

前任は水産振興課長で、国東市の県種苗生産施設の建て替えや、県漁協の蒲江加工センターの整備、魚類養殖業の未来の姿の検討、種苗放流や漁場整備など沿岸域の水産資源の増大対策の実施等様々な水産振興施策の推進に関わりました。本県水産業が抱える課題の解決に



大分県農林水産部
審議監(水産担当)
兼 漁業管理課長

大塚 猛

就任のご挨拶

向けて、大分県漁協の組合員及び役職員の皆さんのご協力を得ながら、県下各地でいろいろな対策が進められていますが、まだまだやらなければならないことが山積していると感じているところです。

そうした中で、県は昨年9月に新たな長期計画である「おおいた農林水産業元気づくりビジョン2024」を策定しました。この計画は令和15年度を目標年度とし、「自ら考え動き、実現する元気な農林水産業」を基本目標に掲げ、元気な担い手が地域をけん引することで、収益性の高い元気な産地が形成され、さらに新たな担い手を呼び込む好循環を生み出していくことを狙っています。

本県の水産業を取り巻く状況は今後も厳しさを増していくものと予測されますが、県の水産関係職員一同が、県漁協の組合員及び役職員の皆さんと緊密に連携し、知恵を絞り汗を流しながら課題に対処し、ともにこの難局を突破していきたいと考えております。今後とも引き続きご協力をお願いいたします。就任の挨拶といたします。

大分県農林水産部
水産振興課長

高田 淳史

本年4月1日付で大分県水産振興課長に就任した高田です。

前任は全国豊かな海づくり大会推進室長で、昨年11月に大分県では43年ぶりとなる第43回全国豊かな海づくり大会を開催しました。大会は「つなぐバトン 豊かな海を次世代へ」をテーマに、つくり育てる漁業のさらなる推進や水産物の消費拡大などを特に県内の方々へ伝える非常に良い機会となりました。中根組合長をはじめ、行事にご参加、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。大会を機に漁業者のみならず県民の皆様も豊かな海を目指してほしいと心より願っています。

一方、大会を開催するにあたり、43年前の第1回開催時とは異なる新たな課題、すなわち漁業者や水産資源、水産物消費の減少や海洋環境問題など現在の課題があることを改めて認識しました。これらへの一つの方向性として、県では昨年「おおいた農林水産業元気づくりビジョン2024」という今後10年の農林水産業の成長産業化に必要な方針をまとめました。成長産業化とは言葉が固いですが、「人口減少が進む中、主体的に生産活動を拡大する」「元氣な担い手」が地域をけん引し、収益性の高い「元

氣な産地」を形成し、新たな担い手を呼び込むという好循環を多く生み出すこと」を目指すものです。資源管理や漁業生産拡大など浜をけん引する中核的な漁業者の活動支援、自然環境やマーケットの変化に対応した養殖業、増殖場や耕うんなど生産基盤の整備・種苗放流・資源管理を組み合わせた新たな資源造成、県産魚をもっと知って買って食べてもらう県内消費拡大の取組強化など、大分県水産業の維持・発展に重要な取組ばかりです。計画の基本目標は「自ら考え動き・みんなで実現する元氣な農林水産業」です。大分県の水産業をしっかりとっていくため、皆様とともに頑張ります。よろしく願います。

農林水産研究
指導センター
水産研究部長

倉橋 賢二郎

4月1日付けで水産研究部に着任しました。これからよろしく願います。

さて、昨年9月に今後10年間の県農林水産行政の基本指針となる大分県農林水産業振興計画「おおいた農林水産業元気づくりビジョン2024」を策定しました。これを受けて、試験研究の方向性を示す「大分県農林水産試験研究基本指針2024」を令和7年3月に策定したところです。指針では、「時代の変化とマーケットに対応し、産地と担い

農林水産研究
指導センター
水産研究部長
北部水産グループ

宮村 和良

この度4月1日付けで水産研究部より北部水産グループに着任いたしました。これまで県南海域の豊後水道等において、養殖及び海洋環境に関する研究に携わって参りましたが、今後は一転、県北の周防灘、伊予灘を担当することとなります。

近年、世界的な気候変動や国際情勢の変化に伴い、異常気象の頻発や燃油代・資材価格の高騰など、水産業を取り巻く環境は年々厳しさを増しております。特に当グループが所管する県北海域においては、温暖化に加え貧栄養化が進行してお

就任のご挨拶

手の技術を革新する農林水産試験研究の確立」を基本理念としており、「ニース」「チャレンジ」「普及」を行動指針としています。現場のニーズを把握し、技術革新へのチャレンジ精神を持つ課題解決に取り組む、研究成果の迅速な普及に努めます。

続いて、当研究部における主要な研究課題について紹介します。1つ目は「EP（エクストルーダー・ペレット）飼料によるかぼす魚生産技術の確立」です。EPとは乾燥した固形飼料のことです。これまで養殖ブリの餌はMP（モイストペレット）と呼ば

り、本来の海の生産力が十分に発揮されていない状況にあります。昨年度開催されました全国豊かな海づくり大会のレガシーを継承し、次世代により豊かな海を引き継ぐため、当グループでは以下の2点を主要な研究課題として取り組んでいく所存です。

・二枚貝増殖に関する研究

二枚貝の増殖には、優良な種苗生産と、それらを育成するための豊かな海域環境が不可欠です。これらは、あたかも種と畑のような関係にあると言えます。種苗生産（種）に

関しては、高水温などの環境変化に強いとされる3倍体力キの種苗生産技術開発、アサリの高密度中間育成技術の実証化、そしてハマグリの種苗生産技術の開発に取り組んでまいります。一方、海域（畑）につ

いては、海の豊かさを示す水質及び底質の栄養塩（窒素、リン）の分布状

れる生魚、魚粉、ビタミンなどを混ぜて作る水分を含んだ固形の飼料が主流で、かぼすブリの生産ミニアルはMPに対応したものでした。現在の養殖ブリの餌はEPが主流になつていくことからEPに対応したかぼすブリの生産技術の確立に取り組みます。

2つ目は「資源・環境に関する

データの収集・情報の提供」です。これまで漁業調査船「豊洋」による海洋調査により水温の長期的な上昇傾向を把握しており、気候変動により魚種や分布域が変化していることが予想されます。そこで、魚市

況について調査を実施いたします。・有用海藻類（ヒジキ、テングサ）の増殖技術の開発

ヒジキにおいては、養殖生産の向上を目指し、人工種苗の安定生産化に向けた研究を進めるとともに、収量や品質向上を目的とした肥料添加による効果の検証に取り組んでまいります。テングサにおいては、藻場面積の維持・拡大に向け、人工種苗の量産化技術開発を行ってまいります。

上記以外にも、資源管理や放流効果に関する研究、漁場環境調査、魚病防疫対策など、多岐にわたる課題に取り組んでいく所存です。

最後になりますが、現場貢献を強く意識し、皆様のご期待に応えられるよう職員一同、新たな研究にチャレンジして参りますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

場の水揚物調査、環境DNA調査などにより、南方系魚種の出現状況や水揚げに占める割合などを把握し、情報発信を行います。

その他にも、人工種苗を活用した養殖ブリ周年出荷体制の確立、病気に強くかつ成長の良い養殖ヒラメの選抜育種、水産資源や磯焼け対策に関する調査研究、養殖用配合飼料の開発、赤潮・貝毒に関する調査研究、魚病診断及び防疫対策指導などにも取り組めます。

これからも、漁業者の皆さんの期待に応えられるよう、使命感を持って鋭意取り組みますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

水 研 だ よ り

令和7年度の重点研究課題

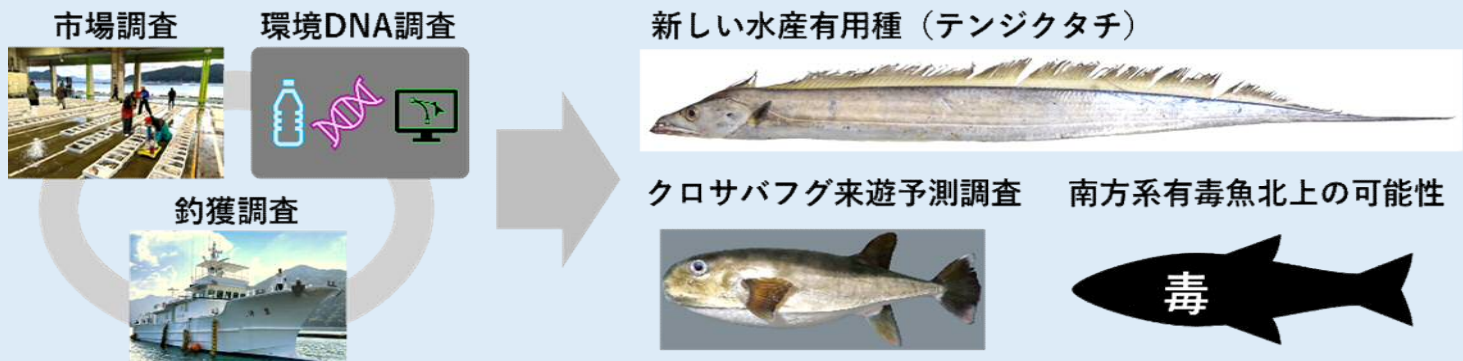
新年度となり、新たな研究課題も始まりますが、水産研究部および北部水産グループ各チームの今年度の重点研究課題をご紹介します。

【水産研究部】

1. 「気候変動影響調査（資源・環境に関するデータの収集・情報の提供 R7～）」資源増殖チ-

（研究概要）

近年の気候変動は、海水温の上昇等を介して魚介類の時空間分布を変化させることで、それらを採捕する漁船漁業に様々な影響を与えるものと考えられる。これまで本県では、調査船を用いた海洋調査により水温の長期的上昇傾向等を把握してきたが、その影響については未調査であり、順応的な漁業管理・経営指導等が困難な状況にある。本事業では、豊後水道域において、市場の水揚げ物調査、環境DNA調査、沿岸域の釣獲調査により南方系魚種の来遊状況を把握し、新規魚種の活用、漁業被害や健康被害の未然防止等の提案に繋げ、気候変動に適応した漁業管理・経営指導体制の構築に資する。



2. 「EP飼料によるかぼす魚生産技術の確立（R7～9）」養殖環境チーム

（研究概要）

県内外において、かぼすブリをはじめとしたかぼす魚の認知度が向上し、需要が高まっている。しかし、現状では使用する餌はモイストペレット(MP)に限定されている。かぼすブリ開発当時は、生魚と、配合飼料、ビタミンなどを混ぜ合わせ、現地生産するMPが主流だったが、現在は、飼料メーカーが生産するエクストルーダーペレット(EP)が主流となっている。また、近年の環境問題への意識の高まりを受け、海外輸出には国際認証が必要であり、それらの取得にもEPの利用が不可欠である。

以上のことから、かぼす魚の更なるブランド力の向上と、海外輸出を可能にするために、EP給餌によるかぼすブリ生産技術の確立・普及を目指すとともに、他のかぼす魚へのEP給餌の利用可能について検証する。

飼料トレンドの変化

→かぼすブリ開発当時エサの主流はMPであったが現在はEP



【北部水産グループ】

3. 「ハマグリ種の生産および増殖技術開発（R7～9）」資源増殖チーム

（研究概要）

近年、アサリの天然資源が減少しており採貝漁業者の方々から、アサリに代わる新たな二枚貝の増殖が求められています。ハマグリは、アサリと比べて高水温に強く、ナルトビエイやクロダイなどによる食害や、低餌料の環境化でも生存率が高いことが報告されています。他県ではハマグリは資源量が増えてきており、種苗の生産技術も進んで、大量生産が可能になっています。このようなことから、

当グループでも今年度から、千葉県、三重県、愛知県などの先進地を参考にしながら、ハマグリを増殖技術開発に向けた以下の実証試験に取り組みます。

- ① 種苗生産(殻長0.3mm未満):浮遊幼生から着底期の水温、塩分、給餌密度等の諸条件を検証します。
- ② 中間育成(殻長0.3→3mm未満):小型種苗を漁港内に吊したカゴに移設し、成長、生残率の検証を行います。
- ③ 放流適地選定(殻長3mm以上):中型種苗を用いて被覆網による増殖試験を実施し成長、生残率の検証を行います

さらに、モデル地区を設定し、資源量や新たに加わった個体数を調べたり、標識を付けたハマグリを再捕調査を行ったりして、ハマグリ資源の状況を把握し、今後の資源管理のあり方を提案していきます。



ハマグリ親貝

4. 「有用海藻類の増・養殖技術の開発 (R6～8)」養殖環境チーム

(研究概要)

ヒジキやテングサなどの有用海藻類が形成する藻場を増やすため、昨年に引き続き研究を進めてまいります。ヒジキは地域によっては養殖もされていますが、種苗を天然に依存しているため、入手が困難であったり、不安定だったりします。このため人工種苗を安定して大量に作出できるよう研究を進めていきます。これまでの研究で成熟したヒジキを入手できれば、受精卵を安定して生産できるようになりましたが、発芽したヒジキを現場で使用するには、生残率等の検討すべき課題があり、今後はこの課題の解決に向け研究を進めていきます。

一方、テングサは藻場の構成種として重要であり、それ自体も漁獲物として有用であることから引き続き人工種苗の作出に向けた研究に取り組んでいきます。また、海藻が生育するための肥料の有効性についても研究に取り組みます。



建材ブロックから発芽したヒジキ人工種苗



建材ブロック1面に繁茂したヒジキ人工種苗

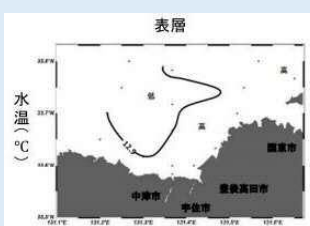
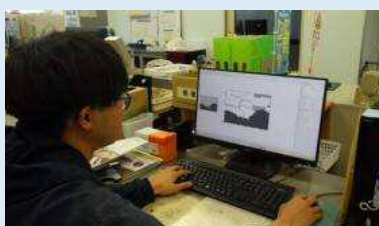
以上が各チームの重点研究課題ですが、この他の各研究課題にも、引き続き取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

水産研究タイムリー情報

水温などの調査結果を公表しています

4月18日 北部水産グループ 養殖環境チーム

水温や塩分などの海洋環境のデータは、長期間の変化の様子を把握したり、水産資源の動向などを検討するうえでも重要です。当グループでは毎月、船舶を使用して調査を行っており、調査結果はパソコンを使って天気図のように分かりやすく図示して公表していますので、よろしければご覧になってください。



オゴノリ養殖試験の経過観察

4月18日 北部水産グループ 養殖環境チーム

寒天の原料となるオゴノリ類の養殖技術を確立するため、昨年6月に宇佐地先の干潟に網を設置し、天然採苗を試みました。その後、約10か月が経過しましたが、一部の網ではオゴノリの繁茂がみられました。まだ解明すべき課題は多いものの、可能性を秘めていることが分かりました。試験に協力いただいている藻類養殖漁業者も興味深そうに見ていました。



大分海区漁業調整委員会 (～R11.3.31)

会長	阿部 貴史	弁護士
副会長	本庄 新	県漁協専務理事
委員	阿部 義広	県漁協杵築地区漁業運営委員
委員	笛吹 理絵	立命館アジア太平洋大学准教授
委員	岡崎 都	県漁協女性部長
委員	小野 裕佳	弁護士
委員	桑原 保徳	県旋網漁業協議会会長
委員	須川 直樹	県漁協佐賀関地区漁業運営委員長
委員	高瀬 亮子	県漁協女性部下入津支部長
委員	近乗 美信	県漁協国見地区漁業運営委員長
委員	鳴海 美代	県漁協女性部上入津支部長
委員	畠中 順子	県漁協別府地区漁業運営委員長
委員	濱田 貴史	(株)マリーナパレス職員
委員	渡邊 英敏	県漁協宇佐地区漁業運営委員長
委員	渡邊 満晴	県漁協名護屋地区漁業運営委員長

大分海区漁業調整委員会事務局

事務局長	平川 千修	漁業管理課参事
事務局次長	三ヶ尻 孝文	漁業管理課主幹(総括)
書記	野田 誠	漁業管理課主査
書記	甲斐 桑梓	漁業管理課主任
書記	利光 佑樹	漁業管理課主事

連合海区漁業調整委員会(～R11.3.31)・大分海区代表者

周防灘三県連合	・阿部貴、渡邊英、近乗、岡崎、笛吹
伊予灘連合	・阿部義、近乗、畠中、須川
豊予連合	・本庄、須川、桑原、鳴海、高瀬、小野
大分宮崎連合	・本庄、桑原、高瀬、渡邊満、濱田

広域漁業調整委員会 (～R7.9.30)

瀬戸内海広域	本庄
太平洋広域	濱田

辞令を受けた第23期委員

第23期
大分海区漁業
調整委員会
発 足

第23期大分海区漁業調整委員会委員の辞令交付式が21日、県庁特別応接室で行われた。佐藤樹一郎知事が委員に辞令を手渡し「海区漁業調整委員会は、漁業法において漁業者及び漁業従事者を主体とする漁業調整機構として位置づけられ、水産業の発展と漁業秩序の維持に大きな役割を担っている。漁場計画の作成、漁業権の免許に係る審査や委員会指示の発出等についても審議していただく。各分野で培った豊富な知識や経験をもとに中立かつ公平な立場から積極的な意見や助

感謝状を持つ退任委員



言をお願いする」と挨拶した。式典後に県水産会館で第1回委員会が開催され、会長に弁護士の阿部貴史氏、副会長に県漁協専務理事の本庄を互選した。また、連合海区漁業調整委員を選出した。議事終了後には新任者を対象に、委員会の機能や権限についての説明も行われた。



同日には、第22期委員会をもつて退任した前委員7名に感謝状が贈呈された。

2024 共済推進、お疲れさまです！

定例報告会を開催 大分県JF共済推進本部

大分県JF共済推進本部(中根隆文会長)は11日、2025年度の第1回定例報告会を開催した。前年度の実績を確認し、本年度の活動計画や漁協還元奨励策等について協議した。

2024年度実績では、普通厚生共済(チョコー)が目標補償額29億円に対して**28.4%**の8億円余と極めて厳しい実績となり、保障額達成は**上浦、くにさきの2支店**にとどまった。一方、生活総合共済(くらし)は、目標補償額21億円に対して**84.3%**の17.7億円となり、**保戸島、本店、上浦を含む13店舗**が目標を達成した。職員数が減少して業務多端のなか、共済の推進に尽力された皆さんに敬意を表したい。

本年度の活動計画では、県漁協の付加収入5千万円達成を目指す推進本部目標が示された。また、3カ年計画の最終年度となる2025年度の計画達成奨励は、契約件数ではなく保障額ベースとし、**やればやるだけ奨励が生じる仕組み**にしたいとの提案があった。

今後は、5月2日の専門委員会、22日の運営委員会で漁協還元奨励策を決め、6月中旬を予定している推進本部総会で本年度の活動計画が決定する。中根会長も自ら浜回りに努めており、職員の皆さんのさらなる頑張りに期待したい。

JF共済

組合員・地域のおなごのために

浜のあんしんサポート運動

を実施しています。

お変わり、お困りごとはありませんか？

現在の保障を点検していませんか？

ご加入中の契約内容、覚えていらっしゃいますか？

ライフプランニングを通して夢の実現をお手伝いします！

「浜のあんしんサポート運動」は、浜の皆さんの笑顔を増やす活動です。

お伺いします！！

チョコー くらし かりて リー ねんきん けふしん

生命・財産の保障もJF(漁協)にご相談ください！

毎月第四金曜日
大分県産魚の日
今が旬

4/25 (金)

**かぼす
ヒラマサ
フェア**

県産魚の日
特別価格!

JFおおいた おさかなランド 明野店・わさだ店

試食会もあるよ!



4月はおさかなランド2店舗で「かぼすヒラマサ」フェアを開催し、特価販売でPRした。わさだ店では試食会を実施。お客様からは「コリコリして美味い」、「ヒラマサと

いう魚は知らなかったけれどとても良い味」など好評で売れ行きも上々であった。先月末のトキハグループへのサイバー攻撃被害に伴うシステム障害に

より、現在もクレジット決済・ポイントサービスは休止しており、お客様が全体で1割程度減少している。システム復旧の目途は立っており、おさかなランドの売上にも影響しているため、今後の動向を注視する必要がある。

県産魚の日

4月のかぼすヒラマサフェア

**祝 黄綬褒章受章
大分魚市 山上社長**



政府は29日、本年春の褒章受章者を発令した。大分県関係は、大分魚市社長の山上誠二氏ら9人が受章した。

山上社長は、水産物卸売業務に精励し他の模範となるとして黄綬褒章を受章した。昭和52年に大分魚市株式会社に入社し、平成15年には代表取締役社長に就任。一貫して水産物の安定供給に努めている。近年は、大分県魚市場連合会の会長として、平成28年に「おおいた県産魚の日」の制定に尽力するなど、県産水産物の消費拡大や魚食普及活動に精力的に取り組んでいる。また、大分県を代表する魚である、かぼすブリの旬入り宣言を開始するなど、地元メディアを通じ、地域ブランドとしての価値を高め、需要の拡大につなげた。令和元年11月には大分県知事表彰(農林水産功労)を受けた。

編集後記

コロナ一過、経済活動の再開に安堵していたら、「一転世界恐慌」が迫ってきた。一世紀前の暗い歴史から学ばなかったボスが経済戦争の核ボタンに指をかけ、世界を相手に恫喝を始めた。グローバル・ジャイアンズが自由貿易主義を破綻させようとしている。

そもそも自国ファーストを目指すとしながら、治まらないインフレに油を注げば自国民はさらなる物価高に苦しむ。貿易収支を改善しなければ、高関税ではなく地道に



サカナをたべれば

**ウオ
メシ**

**シャークカツ弁当
丸和味揚店**



佐賀県産
高タンパク低脂質+DHA
シャークカツ弁当 ¥650

前号の「関あじ聞さばまつり」の項で紹介したサメの料理である。平日にお休みをもらい、ドライブがてら佐賀県に向かった。支店に駐車して「丸和味揚店」に入店。シャークカツ弁当のほか、メンチカツなど数点を注文すると、その場で揚げたてができあがった。常連さんは電話で注文して来店し、ガツリ系の弁当をたくさん買っていく。地元労働者の胃袋を満たす、大切なお店だ。サメはまったく臭みがなく、肉厚で食べ応えのある白身の絶品であった。潮風に吹かれながら、素敵なランチタイムになった。

マーケットインのものづくり等に励むべきだ。ジャイアンズは短期間に世界の人々の資産を奪ったが、自国の株式も歴史的な暴落を続けた。ボスの思惑が最もはずれるのは、「最大の脅威」とする世界第2の経済大国に資金が流れ込み、不動産バブルの崩壊で瀕死の「龍」を蘇生させることだろう。

私事で恐縮だが、私の投資資産も短期間でかなり目減りした。まあ小遣いの範囲なので諦めるにしても心配なのは系統金融である。ポートフォリオを見直した先が大暴落でないことを祈るばかりだ。